

三里塚・ジエット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

さらに「80年代に通用する『自前の労働運動』打ち固めよう



81.9.2
No.835

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
(鉄電)二九三五七六・(公衆)四三二二七二〇七

第六回定期大会の成功にむけて

来たる十月九・十日の二日間、千葉市・千葉厚生年金休暇センターで開催される動労千葉第

六回定期大会にむけて、諸準備が着々と進められている。
すでに、六九名の大会代議員は、去る八月二六日に全員確定し、大会に提出する経過報告並びに一九八一年度運動方針案の作成も順調に進められ、今月中旬にも「職場討議資料」が各支部に配布される予定になっている。

全組合員の皆さん。昨年十一月の潮来大会以降約十ヶ月間、「八〇年代に通用する自前の労働運動」の真価をかけた八一・三ジエット決戦闘争をはじめとする諸闘争を総括し、向う一年間の闘い方針を一三〇〇組合員の手で確立しようではないか。

動労千葉の路線こそ軍大化・改憲攻

悪リ侵略と戦争政策に眞に対決する道

われわれが第六回定期大会でかちとるべき課題の第一は、今日の軍事大国化・憲法改悪攻撃の強まりと、既成労働運動が総体として右傾化・産報化の道を先をあらそつて進められている中で、わが動労千葉が『激動の八〇年代に通用する自前の労働運動の構築』をかけて闘い抜いていることについてますます自信と確信を全体のものとすることである。今日政府・自民党は、帝国主義国間に於ける資源・市場をめぐるあつれきと対立を一層深めつつある中で、独自の戦える軍事力・防衛力の飛躍的増強＝軍事大國化・核武装化政策を急ピッチで推進し、憲法改悪をはじめとする「有事法研究」「防災大訓練」等に見られる侵略と戦争政策に見合った国内体制作りにむけた反動攻撃を一挙に強め、行政改革・国鉄三五万人体制攻撃など大合理化攻撃とあわせた労働運動・とりわけ国鉄労働運動の解体破壊攻撃をも強めている。

一方、既成労働運動は、「統一推進会」を中心とした民間右翼組合が総評をもまきこんで右傾化・産報化の道を突き進んでいる。そして、いまだその戦闘性を保持しつづける国鉄労働運動にあっても、「国鉄五組合共闘」なる右からのゆさぶりととりわけ、動労「本部」反動分子との間の腐敗と墮落と屈服の現実は、国鉄労働運動の危機を一層深めている。

こうした状況の中でわれわれが「激動の八〇年代に通用する自前の労働運動」をめざし、動労「本部」からの分裂・独立をかけて闘い抜いてきたことの正義性・正当性はますます明らかとなつており、このことを全組合員のものとして、打ち固めることである。

三里塚闘争勝利、労働運動の戦闘的再生の戻りひらいた81・3決戦

第六回定期大会でかちとるべき第二の課題は、わが動労千葉が八一・三ジエット決戦闘争五日間の闘いが多くの国鉄労働者はもとより、全国の闘う労働者・人民の新たな活性化を生み出し、闘

いへの確信を与えたことについて正しく総括することである。
われわれは、八一・三ジエット決戦闘争に決起するにあたり、現地反対同盟農民の十五年間にわたるねばり強い闘いに学び、連帯する闘いである○組合員一丸となつて闘いに決起し、権力・国鉄当局・「本部」反動分子一体となつた闘争破壊・スト破り攻撃を粉碎しつつ断固として闘い抜いたのである。そして、「一人の脱落者もなく」ますます組織強化をかちとり、戦闘的労働運動再生へ大きく前進するための第一歩を打ち固めたのである。

一三〇〇の団結で密集せる反動を打ち破る

第六回定期大会でかちとるべき第三の課題は、われわれが八一・三闘争をはじめとする諸闘争を闘い抜いたが故のわが動労千葉破壊・解体の「より密集した反動攻撃」を打ち破り、着実な前進をかちとっていることを全体で確認することである。
昨年末の布施副委員長解雇をはじめ、八一・三闘争後の解雇四名を含む二二五名の大量不当処分攻撃・告訴・告発一六名の不当逮捕・長期勾留一三名への起訴攻撃とうち続く「本部」反動分子・権力・国鉄当局一体となつた反動攻撃がわが動労千葉の前進とこれを起点とする日本労働運動の戦闘的再生に対する恐怖の反動としておそいかつてたりわけ、「本部」反動分子が「告訴・告発」をもつて完全に権力の側に移行するという反動的本質をむき出しにした攻撃を行なつてきた。われわれは、常に「闘いは、新たなより大きな反動を生み出す」「そして、この反動を打ち破つてこそ前进する」とことをこの間の闘いの中で自らのものとして前進をかちとってきたのである。

以上の点をふまえ、順次、「日刊」紙上において職場討議の深化にむけた素材を提供しますので、全組合員・代議員の活発な討論をお願い致します。